

平成29年度 能美市立辰口中学校 学校評価

重点目標 (めざす姿)	具体的方策	主担当	【評価指標】 ＜成果指標＞＜努力指標＞ ＜満足度指標＞	【評価の根拠】 達成度判断基準	取組状況 (中間・学校教育懇談) 8月	評価	取組状況 (最終評価) 1月	評価	学校関係者評価者 による意見	今後の改善策
1	組織的な学校運営	教頭・教務	①情報共有を充実させ、主任等を中心とした同僚性・専門性を活かし研修・協働する中で、教員の資質能力の向上を図る。	＜成果指標＞ 主任層のリーダーシップのもと、各分掌と学年が縦横の連携を図り、組織的な学校づくりが行われている。	＜教職員アンケート＞ 学校経営ビジョンを理解し、連携を図り実践しているか。					
			②「気づき」を大事にし、常に改革・開発の意識を持ってPDCAサイクルを機能させる。	＜努力指標＞ 学校行事等の機会を捉え、成果や課題の検証を行い、よりよくすることに努めている。	＜教職員アンケート＞ 常に課題意識を持ち、周囲に伝えながら、よりよい学校づくりに参画しているか。					
			③安全対策や危機管理の意識と指導力を高め、いじめや不登校等に対し組織として計画的に未然防止に取り組むとともに対応を迅速に行う。	＜努力指標＞ 情報交換を密に行い、各主任や担任・学年会が縦横の関係でいじめ・不登校に対し組織的に対応している。	＜教職員アンケート＞ いじめ・不登校の生徒に対し、早期に適切な対応ができたか。情報の共有化は密にできているか。					
2	確かな学力の育成(知)	教務	①生徒全員が「わかる・できる」ように工夫・配慮された授業をめざす。授業のユニバーサルデザイン「焦点化・視覚化・共有化」を進める。	＜成果指標＞ 3つの視点「焦点化・視覚化・共有化」を意識し、活力ある授業が行われている。	＜教職員アンケート＞ ＜生徒アンケート＞ 「焦点化・視覚化・共有化」を考慮した、「わかる・できる」授業が実施できているか。					
			②教科や総合的な学習の時間等で言語活動の充実を図り、個で考えたり他と考えを交流したりする中で思考を深めたり広げたりできるよう授業をコーディネートする力を高める。	＜努力指標＞ 各教科等で、発問の工夫や思考課題の設定を行うなどして、主体的対話的で深い学びを実現する。	＜教職員アンケート＞ ＜生徒アンケート＞ 生徒自身に、既習事項を活用して思考・判断し表現させることを積極的に行っているか。					
			③「授業の辰人スタイル」を身に付け、家庭学習や読書活動を充実させ、自ら学ぶ積極的な態度を育てる。	＜満足度指標＞ 学校は家庭と連携し、家庭学習や読書の習慣を涵養している。	＜保護者アンケート＞ ＜生徒アンケート＞ 家庭学習や読書習慣、自ら学ぶ積極的な態度が身についたか。					
			④学びのPDCAを構築し、計画的、組織的に学力の検証と学びの改善を重ね、基礎的知識・技能の定着と、これらを活用する力をつける。	＜成果指標＞ 学びのPDCAサイクルを構築し、基礎学力の定着、活用力の向上に努めている。	＜教職員アンケート＞ PDCAサイクルを実施し、学力の検証ができているか。評価テストの通過率が向上しているか。					
3	豊かな心の育成(徳)	研究	①人間教育を学校教育の中心に据え、「アクティブ・モラル・ラーニング」を継続し、生徒の道徳的価値を深めようとしている。	＜満足度指標＞ 「アクティブ・モラル・ラーニング」を継続し、生徒の道徳的価値を深めようとしている。	＜生徒アンケート＞ 道徳の時間では自分の考えを友達と交流し、いろいろな角度から考えを深めることができたか。					
			②生徒会活動やボランティア活動を通して自治・自浄の能力を高め、開発的生徒指導に努める。	＜満足度指標＞ 生徒会活動やボランティア活動に積極的に取り組み、開発的生徒指導を行っている。	＜生徒アンケート＞ 生徒会活動やボランティア活動が活発で、学校生活が充実しているか。					
			③級友との関わりや集団の中での自分の役割を果たすことを通して自己肯定感を高められるよう、認め合える温かな学級づくりをめざす。	＜努力指標＞ 生徒指導の三つの機能を意識し、学習集団、生活集団としての機能を高める学級づくりに努めている。	＜教職員アンケート＞ Q-Uアンケート結果や生徒面談を活用し生徒理解を深め、親和的な学級づくりに努めているか。					
4	健やかな体の育成(体)	保健美化	①教科体育・部活動を中心に体力を高めるとともに、逞しい身体、ねばり強い精神力及び親和的な人間関係を育む。	＜成果指標＞ 教科体育や部活動を通じ、体力の向上や粘り強く努力する心づくりに努めている。	＜各種調査＞身体計測・スポーツテストの結果が向上しているか。 ＜教職員アンケート＞ 体格、体力、粘り強く努力する心は向上しているか。					
			②生徒の不安や悩みを迅速に把握し、解消できるように相談体制や居場所を充実させ、困り感のある生徒には個に応じた配慮を工夫する。	＜満足度指標＞ 教育相談体制を充実させ、生徒の実態を把握し、問題の解消に努めている。	＜保護者アンケート＞ 学校は、不安を持っている生徒や困っている生徒の実態を把握し、問題の解消に努めているか。					
			③家庭と連携してインターネットのルールを徹底するとともに、家族のだんらんや起きる時間、寝る時間、学習時間を確保するなど望ましい生活習慣の確立を図る。	＜満足度指標＞ 家庭と学校の連携力が高まり、家庭のネットのルールが守られ、良い成果が出てきている。	＜保護者アンケート＞ ネットトラブルやネット依存防止のために、家庭での話し合いやルール作りを行い、望ましい生活習慣の確立ができたか。					
5	家庭・地域との連携	教務・研究	①地域人材・伝統・環境等の特色を積極的に学習に活かす中で地域の未来や自分の生き方を考える等、教育活動の更なる充実を図る。	＜努力指標＞ 地域のヒト・モノ・コトを活用し、地域や自分の在り方を考えさせるように努めている。	＜教職員アンケート＞ キャリア教育の視点を持ち、地域を生かした教育活動が行えたか。 ＜生徒アンケート＞ 総合的な学習の時間での課題研究では、ゲストティーチャーや先生から学ぶことができたか。					
			②積極的に有効な情報提供に努め、「開かれた学校」をめざして、地域や保護者の声を大切に信頼される学校づくりを推進する。	＜努力指標＞ 学校からの通信やホームページ、メール配信システムを適確に活用している。	＜保護者アンケート＞ 通信やホームページに目を通し、学校の情報を把握している。					